



ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

三陸ジオパーク 再認定！！

《16市町村のネットワーク》



久慈琥珀博物館の展示品の数々を見学



市町村担当者のヒアリング 一巡後に意見交換



大船渡市立博物館では、学校教育についての説明



学ぶ防災ではまちの模型を見てもらってからスタート

ジオパークの4年に一度の再認定制度により、本年度は当初から何かと話題になりましたが、11月には調査員のお二人による現地調査が行われ、いよいよその結果を伝えられました。

「4年間の再認定が決定！」

事務局一同 ほっと胸をなでおろし、速やかに関係者の皆様に連絡をしました。

日本一広大なジオパークの運営は、まだまだこれからやるべきことも多々ありますが、三陸地域内のジオパークネットワークを構築しつつ、協力運営体制が整いつつあることに対する評価をいただけたものと、感謝しております。

現地調査では、三陸沿岸地域をほぼ回る行程でご案内しましたが、かなりの移動距離となり三陸のエリアの広さを物語っておりました。同行しご案内をしていた私たち事務局も数々の準備や対応は諸々とても大変でしたが、これまでの4年間のジオパーク活動を振り返り、今後の課題やこれからの方向性を整理するためにも良い機会となっていたのではと思います。ありがとうございました。

《全国大会に行ってきました》

関東で10月に開催されたJGN全国大会では、三陸ジオパークの各地からの参加者とともに、銚子の会場に向かいました。会長をはじめとし、認定ガイド、市町村担当者、現地推進担当、事務局関係者あわせて23名となり、初めて参加する方も多く、他のジオパークの現地訪問する機会にとっても興奮していました。

また口頭発表では認定ガイド3名がそれぞれのテーマで三陸での活動、研究についての発表を行いました。



今年度の全国大会ではピンク色のベストが目立っていました

イオン環境財団 三陸ジオパークで環境保全活動

“鳴き砂の浜”八戸市の大須賀海岸で120人が清掃奉仕



みなさまのおかげで、とても気持ちの良い海岸になりました

去る9月10日に、八戸市大須賀海岸でイオングループの(株)サンデー様主催による皆様で、ビーチクリーンが行われました。

昨年度のJGNとイオン環境財団の連携協定による地域活動の一環となり、ジオパーク認定ガイドも6名で対応。今回の参加者からは「地元だけど知らなかったことがたくさんあった」「ジオパークをよく理解できた」など、たくさんの嬉しい声が聞こえました。



みなさん真剣！！

三陸ジオパークシンポジウム ②

パネルディスカッション「三陸の地形の歴史・文化資源の磨き方～三陸ファンを作ろう」より

*前号に引き続き、8月6日に開催された「三陸ジオパークフェスタ」シンポジウムの様子をお伝えします。
津ゆりえ先生の講演のあと、「三陸の地形の歴史・文化資源の磨き方～三陸ファンを作ろう」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。「三陸に人が来るにはどうしたらいいか?」「地域の人とその地域の多くの魅力に気づいていくには?」という問いかけから始まったディスカッションの席において、交わされたパネリストの御発言を要約し、全3回に渡ってお伝えします。

ご登壇いただいた方々

基調講演/パネリスト

海津ゆりえ氏
文教大学

坂田雄平氏
NPO法人いわてアートサポートセンター

伊藤実知子氏
三陸ジオパーク認定ガイド

パネリスト

長谷川晋氏
一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所

金子太一氏
普代村商工会青年部長

総括
弓削貴久氏
地球の歩き方総合研究所事務局長

ファシリテーター
相澤久美氏
NPO法人みちのくトレイルクラブ

パネリスト1 三陸ジオパーク認定ガイド 伊藤実知子氏

ジオパークは地質や地形だけではなく、その上で育まれた多様な人々の生活や文化も含む。見方が分かり、変わって見えてくるものがどんどん増えてくるのがジオパークの魅力。忘れられている郷土の歴史とか風習や文化、民俗など細部を掘り起こしていくとオンリーワンが浮かび上がってくる。

三陸ジオパークは日本のジオパークの中で最も多様な地質と地形がみられ、地域の特色がたくさんあるが、細部を見ることで全体が見えてくるようになる。昔から鉄と牛馬と海産物を利活用してきたが、例えば江戸時代に始まった「南部の鼻曲がり鮭」は商品のブランド化や高付加価値化の先駆けであったとも言えよう。

三陸のミクロな歴史が日本のマクロの歴史に繋がっている。郷土芸能の分布からも昔の物流の姿が見えてくる。ちょっと調べると芋づる式に面白いものがたくさん出てくる。それが最大の魅力。昔のものを掘り出してくるだけで地元の人もよそから来る人も同世代の人も「知らなかった。面白い」ということがとても多い。自分の足元に埋まっている宝ほど掘り返してみよう。地元の人でも「三陸の食」の食べ比べをしてみると良い。



パネリスト2 NPO法人 いわてアートサポートセンター 坂田雄平氏 (前半)

「三陸国際芸術祭」は、復興支援などで三陸を訪れた現代芸術家やアーティストの方々が三陸の文化形態に驚き、郷土芸能を他の地域や世界に発信し、復興の先駆けにしたいという思いから始まった。

外からの人が見ると三陸地域は意外な文化を持っていて、世界的にも類を見ないくらい多種多様な芸能を残していると言われている。インドネシアは観光ですごく成功しているが、自然観光と踊りを見る。たくさんの島国でできているので、様々な芸能があるが、三陸の郷土芸能にはそれと同じくらい本当に人を惹き付ける魅力があると思う。

今回のジオパークフェスタも三陸国際芸術祭も、実は日本を代表する文化的なもので日本博2.0という日本の文化を発信するプロジェクトとなっている。

三陸沿岸は、地形が独特だったことから隔絶された文化形態があると考えられる。神楽の巡業は日本の中でも珍しいが、各地から見に行くのがとても困難だったので巡業するしかなかったのかもしれない。藩政時代には文化を使って人のまとまりを支援してきたようだが、そもそも自然が厳しいので地域のみんながコミュニティを結束しなければ、生きていけなかったのではないかと想像できる。



* パネルディスカッションよりパネリストからのご発言は次号に続きます

「三陸ジオパーク検定」チャレンジャー募集！ どなたでもOK
さんりくの問題50問に60分間で挑戦しませんか？ 35問以上の正解で合格！！

○日時 令和6年1月27日(土) 10:00～11:00 (9:30開場) *受験料はかかりません

○会場 下記3か所の同時開催ですので、お近くの会場お越しくください

- 【北部】久慈市情報交流センターYOMUNOSU 1階 多目的室
- 【中部】イーストピアみやこ 1階 会議室1
- 【南部】釜石市青葉ビル研修室2



☆詳しくはHPまたは各市町村に配布した受験案内・チラシをご覧ください。

三陸ジオパークフォトロゲイニングinみやこを開催！

10月15日（日）67チーム183名が歩いて、走って、食べて、宮古市の魅力を堪能しました！

フォトロゲイニングとは、あらかじめ点数が決められたチェックポイントを地図をもとに時間内に巡るスポーツです。歩いてのんびり回るもよし、走って高得点を目指すもよし老若男女楽しめるスポーツです。

9：55のスタートからお天気は残念ながら雨…それでも皆さん、5時間の競技時間を目一杯使い切って、北は中の浜、南は越田山展望台まで宮古市内の39か所のポイントを回っていました。

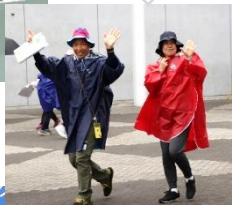


一斉スタートの前に全員で記念撮影！！ファミリーでの参加も楽しいですね！！



作戦会議！どのポイントを回ろうか？

スタート。行ってきます！！



ゴール。何か所まわられた？

チェックポイントには、ジオサイトや宮古のジオを感じられる場所が多数設定されており、それらを一か所でも回った場合はジオフォト賞として記念品を進呈しました。

ゴールの後たくさんの方がジオフォト賞記念品を受け取りにきてくれました。

チェックポイントのひとつ丸徳さんでは、名物のちくわやおふるまいのさつまあげを堪能したり、また同日、出崎ふ頭で行われていた宮古味覚まつりでも、美味しい海の幸を楽しむ参加者がたくさんいました。

アンケートの結果、印象に残った場所は、1位港大杉神社、2位蛸の浜、3位御台場展望台でした。晴れた日にまた来たいという感想もありましたので、ぜひ晴れた日の宮古のジオサイトを見に来て下さい！



ジオフォト賞のお渡しコーナー

「もーりい の さんりくジオ話」 三陸ジオパーク専門員の盛合秀がお届けします

《16市町村でジオパークの日の取組①》

8月22日のジオパークの日に合わせて構成16市町村各地でサイトなどの清掃・保全活動が実施され、私は、宮古市の活動に参加しました。当日は32名の方が参加され、清掃活動（日出島漁港にて）のほかみちのく潮風トレイルの体験、化石探しを行いました。炎天下ということもあり、当初の予定より短い時間での清掃活動となりましたが、限られた時間の中で参加者の皆様が意欲的に清掃活動をされていたのが印象的でした。また、トレイル体験や化石探しについても皆様が楽しみながら体験されていました（自分も化石探しを熱中症にならない程度に熱中しました）。こうした活動を通じて、地域の皆様に保全や保護の大切さやジオパークに対する理解が広まっていけば良いと思います。



宮古市での活動の一コマ
漁港までは、徒歩で移動

《16市町村でジオパークの日の取組②》

《大船渡市：外来種植物の駆除活動》

8月22日の「ジオパークの日」に合わせ、大船渡市では、三陸ジオパークや当市のジオサイトである「碁石海岸」について学ぶミニジオ講座と、碁石椿園で特定外来生物である「オオハンゴンソウ」の駆除活動を実施しました。



当日はニュースの取材も入りました

オオハンゴンソウは、キク科の多年生草本で、ヒマワリの花を小さくしたような黄色の花を咲かせます。繁殖力が強く条件が良いと急激に広がるため、在来植物の生育を妨げるなど地域における生物の多様性を失う危険があります。近年では、市内各地でも確認されており、できるだけ早い段階での駆除が必要になります。冒頭にミニジオ講座で学習したオオハンゴンソウの見分け方・抜き方をマスターし、約1時間の作業で、ゴミ袋5個分のオオハンゴンソウを取り上げて、充実感と達成感がありました。活動に参加してくださった皆さま、大変お疲れ様でした！

<大船渡市観光サイト おおふなとりっぶ>から 引用

[「ジオパークの日」に当市ジオサイトの保全活動を実施しました！ - 大船渡市ホームページ \(city.ofunato.iwate.jp\)](http://city.ofunato.iwate.jp)

《山田町：オランダ島に渡ってビーチクリーン》

山田町では、山田湾のオランダ島に漁船クルーズを楽しみながら上陸し、流れ着いた漂着ごみを撤去しました。漁業に使っている道具類でも、波や風に持っていかれてしまうと、取りに行くことはできません。砕けた発泡スチロールがたくさん集積している状態があちこちに見受けられました。キャンプなどで使う木炭の残骸も分解されないためゴミとなりますので、そのままにせず持ち帰って処分することをお忘れなく。



オランダ島には、砂鉄があります

《岩手県地域おこし協力隊 山岸学さん 着任のごあいさつ》



八戸市出身の山岸さん

三陸ジオパーク推進協議会の事務局にこのたびコーディネーターとして着任しました。ちょうど車のエンジンのエンジンオイルのようなものです。ジオパークのイベントや事業がスムーズに進むよう、多くの関係者の間を取り持つことが役目とっております。

経歴は、環境調査員や障がい者支援施設支援員です。海外協力隊も経験しています。異質な職種のすべてをとおして、手つかずなどでない、人の作った環境がきれいだと感ずるようになりました。

例えばアフリカのガーナでは、ある町に不思議な形の農耕地が広がっているのですが、それを衛星画像から「発見」したので実際に現地に行ってみたところ、地上ではその模様は見えません。それは現地の農民が代々受け継いで行っている毎日の労働を通して作られた「結果」であって、(少なくとも私には)魅力的に思えるその模様を意識することはないそうですが、そのことがまたより一層「魅力深いもの」にしました。

三陸には、自然の猛威にめげず営々と築いてきた集落や町が連なっています。見た目だけでない、その魅力を、もしかしたら気づく余裕もなく過ごしているかもしれない、住民の方に伝えたいと思ったのが、ジオパークにかかわる職をめざした動機です。

コーディネーターがエンジンオイルと違うのは、年季が入るほどよくなることです。はじめは質が悪くても、皆さまに育てられることで滑らかさを増していきたいと思えます。

編集後記：暖かい12月から一転し、今日は打って変わって寒い一日となりました。でもこれが本来の三陸の冬の気候。内陸と違って、雪は多くないのです。雪は北上山地でダブルブロックされて、冷たい空気だけがその山を越えて下りてくるので、強い風が吹くことが多く、道も凍ります。なので車のフロントガラスが真っ白になっていると解凍されるまで発進できなくなってしまいます。雪下ろしよりは短い時間ですが、その分見越して支度します。冬来りなば春遠からじと言いますが、空気の澄んだこの季節の夜空は格別にきれいです。良いお年をお迎えください。～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

(宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/



Facebookはこちら